

平成28年度

決算特別委員会

9月
11・13・14日

町民ホール

平成28年度の予算がどのように使われたのか、一般会計・5特別会計・1企業会計を審議するため、決算特別委員会が設置された。委員長に沼澤道也議員、副委員長に高橋芳夫議員が互選され、9月11日松坂忠良代表監査委員による各会計審査意見書の説明に続き、13日と14日の2日間にわたり行われた。9人の委員（委員長を除く）が質疑を行い、14日本会議にて全会計を全員賛成で認定した。



沼澤 道也 決算特別委員長

平成28年度各会計決算提出議案

各会計決算状況 ～全員賛成で認定される～ (単位：円)

議案番号	会計名	歳入決算額	歳出決算額
38号	一般会計	4,940,560,548	4,638,697,538
39号	国民健康保険特別会計（事業勘定）	111,904,931	110,898,571
	国民健康保険特別会計（直診勘定）	339,387,122	324,791,840
40号	介護保険特別会計	714,585,305	703,771,207
41号	後期高齢者医療特別会計	59,178,005	58,670,877
42号	農業集落排水事業特別会計	74,969,028	72,456,022
43号	公共下水道事業特別会計	152,279,242	148,619,094
44号	水道事業（収益的収支）	189,445,720	196,122,186
	水道事業（資本的収支）	0	82,189,535
全 会 計 合 計		6,582,309,901	6,336,216,870

決算審査意見

代表監査委員
松坂 忠良



国内において、7年連続で国税を伸ばしていたが平成28年度には前年を下回り、経済発展による財政健全化策に陰りが生じてきている。過去最大の借金を抱え、消費税増税を回避し超高齢化に対応した社会保障費等の財源不足が見込まれ、政府の強固な財政健全化策により地方交付税は減額するものと予測される。当町においては、過疎指定を受け大規模な施設整備を続けて実施した事により地方債残高が増加し、過疎債の元金償還により公債費は大幅に増加して行くことが見込まれる。引き続き公債費負担の適正化、行政コストの削減、特別会計の経営健全化等将来負担を見据えた予算の編成と執行を図り、町民から理解と共感を得られる財政運営を望むものである。

平成28年度 歳出総額 63.3億円 決算

一般会計 46億3869万円
(27年度 46億8702万円)
特別会計他 16億9752万円
(27年度 17億4367万円)



イザベラ塾で家庭学習を応援

英語について、新指導要領で小学3年生からの実施となっており、小学生のうち、英

学力向上対策

事業について
中村 忠行 委員

問 新庄最上定住自立圏構想に算数・数学スパーバイザーの設置について明記されているが、国のワーキンググループにおいても、発達の段階から算数的な考えや活動を充実させ、数学的思考力や理解力を高めることが必要だとされている。現

在の算数・数学スパーバイザーの設置状況について伺う。また英語に関する「使える英語」の教育に変化している。英語教育に関してはどのような状況なのか。

答 教育長 平成27年最上地区教育長会において、数学について力をつける必要があるとし、スパーバイザーの配置を事業化した。現在は指導主幹として当町出身の和田宏氏を配置しており、予定では平成32年を目処に6年間設置予定としている。

町育英基金の公平性について

高橋 浩樹 委員

問 奨学金の交付金額が就学年数により異なることは公平ではない

と考える。検討の結果での判断なのか。また、来年度からの給付型奨学金制度との併用は可能なのか。

答 教育長 現在4年生大学は月額4万円、短大、専門学校は月額3万円となっている。学費等を考慮すると、やはり4年生大学は経費が上回っており、毎年開催する育英会での話し合いを通し、今年度も決定したところである。金額については現状継続と考えているが、今後も協議しながら進めていく。また、給付型奨学金との併用

多面的機能支払い交付金について

高橋 芳夫 委員

問 多面的機能支払交付金事業について。大変好評を得ているが、いつまで続く制度なのか、噂では法律で決まったと聞いたが。